



大野市教育委員会たより

令和元年10月4日発行 第22号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、出席しました「わく湧くお届け講座」の結果概要について、お知らせします。

主催：菖蒲池結サロン 開催内容：わく湧くお届け講座（小中学校再編計画について）
開催日：8月25日（日）午前9時30分～11時 場所：菖蒲池結和館
出席者：菖蒲池結サロン会員（15人）、教育委員会（2人）
説明内容：（1）教育長の願い、（2）学校再編の取組みの経過、（3）学校再編計画の内容、（4）大野市の学校施設の現状、（5）大野市の学校教育の現状

※以下は、「質疑応答」の主な内容です。

※菖蒲池結サロン会員からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎議員が再編計画に反対していた理由は何か。

⇒■議員だけでなく市民の方も考えていたことではないかと思うが、再編計画（素案）の時よりも学校数が減っていたことと、再編が急すぎるというのが大きな理由と思っている。

⇒◎私たちの時は人口が増える一方だった。だから学校も増やした。人口減少は初めての経験である。スクールバスを手配してもらうなどをしてもらえば再編には賛成である。

◎学校単位で公民館があると思うが、再編されるとその構成（配置）も変わるのか。

⇒■これまでは各地区に学校を残しながらの再編であったが、これからは地区をまたいでの学校再編になると思う。地区ごとに公民館は残ると思うので、今後は公民館を核としてのまちづくりが進めていけたらと思っている。

◎市は子ども中心にまちづくりを考えているが、大人を中心にしたまちを作り、こどもを育てることを考えるべきである。

◎小学校5・6年生で英語を教えると説明があったが、アメリカに行って仕事をしなさいと言っているようなものではないか。

◎全校舎の耐用年数はどうなっているか。

⇒■耐用年数は約50年と判断している。現在、各校舎の状況について調査を行っている状況である。結果を踏まえて再編計画に反映していきたいと考えている。

◎複数学級が望ましいと思うが、大野市では1学年1クラスが良い。複式学級は子どものために避けて欲しい。

⇒■市内には複式学級の小学校は4校ある。子どもにとって複式学級で十分な教育を受けられるかという疑問である。複数学級は、クラスでいじめなどがあった場合などクラス替えが出来るなどの利点がある。

◎再編計画を実施すると誰に負担が掛かると思うか。家族全員に負担が掛かるのではないか。子どもだけの負担ではない。そのようなことも考えて、計画を立てて欲しい。保護者の意見を聞くべきである。中学校1校、小学校2校にしていくと大野市は発展していかない。

⇒■現在、小中学校や保育所、認定こども園の保護者と意見交換会をしながら、意見を聞いているところである。その意見を十分に参考しながら、計画の見直しを検討していきたいと考えている。

◎1クラスにある程度の人数がいないと、子どもは、社会に出た時にカルチャーショックを受けやすいのではないか。子どもの時から、ある程度的人数の中での競争は必要であると考えている。

⇒■福井県は国の基準より1クラスの人数を抑えた基準にしている。教員も1クラスの人数が多いと目が行き届きにくくなる場合もある。このような状況も考慮し、検討していきたい。

お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本たよりは、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

